

JACET中国・四国支部 Newsletter

第 6 号

目次

● 巻頭言	支部長 松岡 博信	1-2
● 2010 年度支部ブロック研究会報告		
第 3 ブロック (四国)	代表 寺嶋 健史	2
● 2010 年度支部研究会 OPP プログラム報告	代表 岩井 千秋	3
● 2011 年度支部大会および支部研究会のお知らせと発表応募要領		3-4
● 紀要投稿募集要領		4-5
● 事務局だより		5
● 編集後記		5

巻頭言

中国・四国支部長 松岡 博信

JACET 中国・四国支部会員の皆様。

明けましておめでとうございます。本年もどうかよろしく願いいたします。

支部長として、昨年末の 12 月 19 日 (日) に東京の JACET 本部で開かれた本年度第 2 回臨時理事会に行っていました。犬の遠吠えだけが聞こえるまだ寒く暗い朝の 5 時過ぎに家を出て、6 時の広島駅発「のぞみ」に乗り、11 時からの会議に何とか間に合いました。日帰りの東京往復で一人旅は、なかなか辛いものがありますが、車内では最近手に入れた Galaxy Tab で遊んだり、電子書籍を読んで気を紛らわせました。

昼休みを挟んで、会議は 16 時まで続く予定

でしたが、予定より 30 分早く会議は終わり、それでも帰宅したのは、夜の 10 時ころでした。

今回の議題は、9 月の第 1 回の時に積み残した宿題などを各支部から報告してもらい、全ての議事の結果を、この 3 月 19 日 (土) の早稲田大学である定例理事会で最終的に審議し、その後の社員総会にて報告することになっています。

この理事会ですが、9 月の全国大会前日の第 1 回と同じく、臨時と言いながら、実のところあまり臨時でもなく、毎年定期的に開かれているようです。実際、12 月の第 2 回の開催は、すでに 9 月に決定していました。それくらい JACET 理事会では毎年協議する議題

が多いと言えます。特に、本部役員の方々は、まさに滅私奉公的に JACET の運営に取り組んでくださっており、毎回送られている運営会議の議事録などを見てもさすが JACET と言わざるを得ません。

しかしながら、支部における研究大会やブロック研究会の開催は役員だけではできません。第一に発表される会員の方がいないと成

り立ちません。支部の中心は、あくまで会員の方々による研究活動だと思っています。役員はその意味で会員の皆様にお世話になっていると常に感じています。今年も支部の活動が例年にも増して充実したものになりますように、会員の方々のご協力を切にお願いいたします。

(安田女子大学)

2010 年度ブロック研究会報告

第3ブロック代表： 寺嶋 健史

平成 22(2010)年度 JACET 中国・四国支部四国ブロック研究会が愛媛県松山大学を会場にして 11 月 27 日に開催された。昨年と同様に今回も、松山大学大学院言語コミュニケーション研究科が主催する「アクション・リサーチ研究会研究大会」と共催の形となった。アクション・リサーチ研究会（AR 研究会）とは、愛媛県内の小・中・高の教員が集まり、授業改善を目指して 3 年前から始まった月例研究会である。大会のテーマは「省察を深めるアクション・リサーチの進め方—小学校から高等学校まで」で、発表者を含めて 55 名の参加者があった。

午前の研究発表 1 では、山本千明先生（新居浜市立角野小学校）が「小学校外国語活動におけるアクション・リサーチの取り組み～伝え合う力の育成を目指して～」の題目で発表した。活動の流れをパターン化し、聞く活動の時間を十分に取り、学習教材をより児童の身近なものにすることが、児童が安心して主体的に活動に参加し、積極的なコミュニケーション活動を行うために大切であるという実践報告であった。

研究発表 2 では、菅野裕美先生（松前町立北伊予中学校）が「豊かな表現力を育成するための指導法」の題目で、自身が普段実践されている授業を、参加者を生徒に見

立ててその場で実践し、工夫を凝らした指導法で参加者を魅了した。

午後の研究発表 3 では、池内大輔先生（愛媛県立土居高等学校）が「ライティング指導の改善プロセス—教員の自省に着目して」の題目で、英語版「東京ガイドブック」の作成と文化祭での展示活動を通して、基礎的な語彙や英文法が定着し、自分の調べた内容を表現する楽しさを味わい、互いに他の生徒の作品の良さを認め合う姿勢が養われるに至った成果が報告された。

その後、「アクション・リサーチの過去・現在・未来」というテーマで、「生きた力」を育てる授業ができる「授業力」の習得、生徒や同僚と協働し「社会力」育成も目指した授業改善、大学や大学院での教員養成を見直し、について AR 研究会顧問である佐野正之先生による基調講演があった。

引き続き、「教師の成長を目指した研修の在り方」というテーマで、金森強先生（松山大学）コーディネーターのもとで、佐野正之先生と、鎌田宏和先生（南予教育事務所）をパネリストに迎えて、パネルディスカッションが行われた。

小・中・高・大・行政関係者が集う有意義な研究大会であった。

(松山大学)

第2回 Oral Presentation & Performance (OPP)

研究会報告

支部研究会 Oral Presentation & Performance (OPP) の第2回イベントを昨年12月18日(土)に広島工業大学デネブホールで開催しました。今回はエントリー総数7大学、学生プレゼン・パフォーマーは総勢62名、指導された先生方9名、それに保護者や参加した学生さんの知人・友人の皆さんを併せて総勢100名程度のご来場がありました。「笑いあり、涙あり、歓声あり」、学生の皆さんが取り組んできた練習の成果を遺憾なく発揮し、会場は熱気一杯。初回をしのぐ盛会となりました。以下に各大学の発表内容を簡単にご紹介し、まず(発表順、カッコ内は指導者)。

- ・広島工業大学(三熊 祥文先生) 2名のスピーチと学生さんの専攻などを盛り込んだオリジナル・チャンツ。
- ・広島市立大学(岩井千秋) 被爆者の詩を盛り込んだコーラル・リーディング。
- ・県立広島大学(船津晶代先生) 学生さんのゼミ研究や海外体験をもとにした発表。
- ・広島女学院大学(貫名緑先生) 自作の英語絵本を用いたストーリー・テリング。
- ・安田女子短期大学(橘野実子先生) クリスマス・ソング・メロディーとダンス。
- ・広島国際学院大学(小牟田康彦先生、山中英理子先生、三宅美鈴先生) 映画 Mrs.

Doubtfire の映像への voiceovering による上映。

- ・広島国際学院大学(Bill Moore 先生) 平和公園等で行ったステレオタイプ等に関する外国人への聞き込み調査の結果。

イベント後には学生さん、先生方を交えて親睦会も行ないました。とても嬉しかったのはリピーターの学生さんに再会できたことです。また、前回の経験に基づいて、発表の内容も方法も随分グレードアップしていたのが印象的でした。

会場校の堀部英雄先生、三熊祥文先生には事前準備の段階から大変お世話になり、また立派な会場を無料でご提供いただけたようお取り計らいいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

なお、まだ完備していませんが、OPPの専用サイトを次のURLに作成しましたので、ご覧いただければ幸いです(画像等についてはパスワードが必要です。ご希望の方は代表者までお問い合わせください。)

http://chiaki.intl.hiroshima-cu.ac.jp/Bulletin/07OPP/OPP_index.htm

OPP は来年も開催予定です。多くの先生方のエントリーをお待ちしています。

(OPP 代表 岩井千秋、広島市立学)

2011 年度支部大会および研究会お知らせと発表応募要領

6月25日に開催された臨時役員会にて2011年度スケジュール(案)について話し合いが行われました。暫定的ではありますが、お知らせ致します。

支部大会

*日時: 2011年6月4日(土)

13:30~ 研究発表(予定)

17:30~ 懇親会(予定)

*場所: 山口大学 教育学部

*大会テーマ(未定)

支部研究会

第1ブロック（広島・山口・島根）研究会

日程：2011年10月1日（土）

場所：広島工業大学

第2ブロック（岡山・鳥取）研究会

日程：2011年10月15日（土）

場所：岡山大学

第3ブロック（四国）研究会

日程：2011年11月5日（土）

場所：松山大学

A) 応募情報

- a. 発表題目 (Title) : 日本語と英語
- b. 種別 (Style) : 自由研究発表, 実践報告, 事例研究など
- c. 氏名 (Name) :
- d. 研究領域 (Research Area) :
- e. 概要 (Abstract) : 目的, 背景, 仮説, 方法, 結論, 引用文献など日本語の場合は600字以内, 英語の場合は250 words 以内とする。
- f. 所属 (Affiliation) :
- g. 使用機器 (Equipment needed) :
- h. 連絡先 (Contact Address) : メールアドレスなど
- i. 発表を希望する研究会
 1. 第1ブロック(広島・島根・山口)
 2. 第2ブロック(岡山・鳥取)
 3. 第3ブロック(四国)

B) 申込応募期間

支部大会

2011年4月25日(月)～5月20日(金)

第1ブロック

2010年8月1日(月)～9月15日(木) 午後11時59分まで。

第2ブロック

2010年9月1日(木)～10月1日(土) 午後11時59分まで。

第3ブロック

2010年9月15日(木)～10月15日(土) 午後11時59分まで。

C) プログラムおよび発表スケジュールなど詳細は,

1. 支部大会は5月下旬
 2. 第1ブロックは9月下旬
 3. 第2ブロックは10月上旬
 4. 第3ブロックは10月下旬
- にそれぞれ E-mail で通知いたします。

■中国四国ホームページアドレスにも掲載いたします。

<http://ds21.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~bld10/JACET/>

■申込先

(新)事務局幹事 平本哲嗣
hiramoto@yasuda-u.ac.jp

～『JACET中国四国支部研究紀要』投稿募集～

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文, リサーチ・ノート, 実践・研究報告, およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として, 年一回2月に支部紀要を刊行しています。応募資格は, 所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委託原稿については,

この限りではありません。投稿論文は, 原則的に過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづく論文が望ましいです。審査は, 委託原稿を除き, 紀要編集委員会が指名する審査員が担当し, 査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。奮っ

でご応募ください。発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り：10月末
- 審査結果通知：12月末
- 修正原稿締め切り：1月末
- 刊行：3月末

送付先：紀要編集委員会事務局長
角山照彦（広島国際大学）

E-mail: kadoyama@it.hirokoku-u.ac.jp

投稿規程については、JACET 中国四国 HP
をご参照ください。

～事務局だより～

所属、メールアドレス、住所、身分・資格などが変更された場合には、まず、事務局本部 jacet@zb3.so-net.ne.jp にご連絡ください。

今年度（2011年度）より、事務局が平本哲嗣（安田女子大学）研究室に変更しております。発表申込みの際には、お間違えないように、よろしくお願いいたします。

編集後記

今回のニューズレターでは、前回お伝えできなかった第3ブロックの報告と OPP 研究会の報告を中心とした内容になっております。加えて支部の年間行事と募集に関する内容も記載しております。皆様の年間活動の参考になればと願っております。

2008年度から三宅研究室を事務局としてお手伝いしてまいりましたが、2011年度から新事務局が平本研究室に変わります。これまで、至らぬ点多々あったとは存じますが、支えてくださいました、役員の皆様そして会員の皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。今年度からは支部幹事として皆様のお役に立てればと思っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本ニューズレターは変わらず三宅が担当いたしますので、皆様のご意見やら掲載の



ご希望などございましたら、三宅まで遠慮なくお知らせください。

毎年1月2月は慌ただしい日々が続きます。どうぞ、皆様お体を第一に、ご自愛ください。鬼は外！福は内！（MM）

JACET 中国・四国 Newsletter 第6号

2011年1月31日 発行

発行人：JACET 中国・四国支部（代表 松岡 博信）

編集：JACET 中国四国支部幹事 三宅 美鈴

発行所：〒739-2695 東広島市黒瀬学園台 555-36 広島国際大学 国際交流センター
外国語教育研究室 三宅 美鈴

連絡先：Tel:0823-70-4563 FAX:0823-70-4544 E-mail: m-miyake@it.hirokoku-u.ac.jp